

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200382		
法人名	株式会社 サンライズ		
事業所名	グループホーム 伸&茉衣		
所在地	佐賀県唐津市佐志2119番地2		
自己評価作成日	平成25年3月18日	評価結果市町村受理日	平成25年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成25年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは3月で9年目を迎えました。施設のハード面には目新しい特徴は何もありません。当施設は9名1ユニット×2 という考え方ではなく、18名の利用者が6名の職員と一緒にゆっくりとした時間が流れる中で生活を過ごして行くという考え方で捉えています。最低限必要な決まりごと以外は出来る限り利用者の方の意向に合わせて行こうと努力しています。利用者の気持ちを全て汲み取る事が出来ているわけではありませんが、職員は家族の方に準ずる存在になる事を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは小鳥のさえずりが心地よく響き、木々や花々から季節を楽しむ事が出来る自然豊かな山の中腹にある。入居者・家族の希望に沿った支援でありたいと、高齢者の方を人生の先輩として「尊敬、思いやり、やすらぎ」のあるグループホームを目指すとの理念のもと、時間に追われぬ、ゆったりとした心地よい介護に努められている。敷地内に同じ法人の施設があり、緊急時の連携とともに、散歩コースとなっている。また、母体が病院の為、健康管理や医療体制が整っている事も、本人、家族の安心となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
	伸	茉衣			伸	茉衣	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊敬・思いやり・安らぎ」のあるグループホームを目指しており、利用者主体の生活環境作りをスタッフ間で意識付けしている。朝礼時に理念の唱和を行っている。	朝礼時に理念を唱和し、意識づけが行われている。日々の生活の中で理念に沿ったケアになっていない時、その場で指導がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	おたっしゃコーラス倶楽部という利用者のコーラスグループが文化発表会に参加した。今年の初詣は地域にある神社に初詣に出掛けた。	法人のコーラスグループのメンバーとして地域の文化祭へ出場したり、地域の青年団による獅子舞の訪問がある。地域とよりつながりたいと、近隣のグループホームの運営推進会議に出席されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で施設内の勉強会で使用した資料で認知症について説明を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加頂いている外部の方の意見や助言を参考にし、ホーム内の問題点や課題を見つけ出し、改善していけるように心掛けている。	行事報告とともに出席者より助言をもらったり、ホームより認知症理解に役立つ資料を出席者に配布されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所に足を運ぶ機会は年々増えている。地域包括支援センターの職員からケアプランの研修会を開催して頂いた事も協力関係を築く機会が多くなっている。	運営推進会議、市役所への訪問、集団指導を通じ、相談や協力を得られる関係が築かれている。市役所より入居者の紹介や、ホームよりの要請で研修会開催が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームでは身体拘束は行わない。身体拘束排除の理念を掲げており、職員にもしっかり認識してもらう事が出来ている	身体拘束の内容とその弊害を認識されている。ベッドからの転倒を防ぐ為、ベッドの機種や高さを調整する事で転落の危険性を少なくするなど、拘束のないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の講習会・勉強会にて知識を深め、虐待が起こらない・起こさない環境を作るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は利用者の方に成年後見制度を利用されている方がおられ、制度の有効性を実感した。後見制度の仕組みについては職員も知識や理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はじっくり時間をかけて説明を行っている。入居後も家族の方の疑問や質問にはしっかり対応出来るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常会話からの利用者の言葉や家族の意見を参考にして運営に反映するように心掛けている。意見箱を設置しているがなかなか意見が出てこない現状がある。	入居者の言葉や態度から、また、家族の訪問時の会話の中から意見、要望をくみ取られている。出された意見、要望は検討し、それらを運営に反映させようと努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特定の機会は設けていないが、日頃の勤務時間内で管理者と職員間はコミュニケーションをとれる関係にあり、職員からの意見を運営に反映させられるように努めている。	管理者が職員に意識して声かけを行い、意見、提案を吸い上げられている。その場で解決出来ない事は法人の管理者会議で意見、提案を伝えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社外の研修や勉強会に参加出来る職員が年々増えており次期管理者候補としての育成にも力を入れられるようになって来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で管理者ならびに候補者を対象にした勉強会等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームが集まる勉強会に参加したり、近隣のグループホームの運営推進会議に出席し情報交換や交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話をじっくり傾聴する事や言葉にならない本人の要望や困っている事をしっかり見出し、表情や行動にも注目しながら最大限に対応出来るよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や面談時、入居後においても家族の要望・質問等には丁寧に分かりやすく答え、安心してもらえるように努めている。職員側から積極的に会話を行うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族及び利用者本人の意見をまず尊重しその中からニーズに合った支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	24時間・365日時間を共有しながら、時には家族のように・時には友人のような関係を築き上げるよう心掛けている。洗濯物を干したり等利用者の有する能力の範囲内で手伝いをしてもらう事も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を交えた行事の参加を呼び掛け、利用者や家族と職員が交流する場を設け、より信頼を深めて行けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同敷地内にあるデイケアから友人・知人が訪ねて来られたり、以前関わりのあった別の施設の職員が遊びに来られたりと交流が続いている。	入居前に利用されていたデイケアより馴染みの友人の訪問がある。また、本人、家族の要望で法事に出席出来るよう送迎を行ったり、買い物と一緒にいたり支援に努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、職員が利用者同士の間に入って良好な関係作りの手助けをしたり、利用者同士のトラブルが起きないように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホーム退居後であっても法人内の施設や病院で見かけた時は声を掛けたり、家族の方と話や相談等を受ける事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉には表れない表情やしぐさにも着目して、利用者がなかなか言い出しにくい気持ちを汲み取り、希望や意向の把握を行い「その人らしさ」をサポートしている。	本人から希望、意向を直接聞いたり、日常生活の中の言動や表情等より把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者と会話をしながらこれまでの生活歴を聴いたり、家族の方からの情報をもとに現在の生活の向上に繋がるように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活からの心身状態の確認やレクリエーション等の余暇活動からも状態を確認し有する能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼・終礼の申し送り時や業務中においても利用者の些細な事でも気付いた事があれば職員間で周知・検討する。また家族の方の意向を尊重しながら介護計画の充実に努めている。	本人には関りの中で、家族からは面会時に要望を聞かれている。また、職員全員に意見を出してもらい、介護計画が作成されている。定期的にモニタリング、評価を行い、変化があった時、見直しがされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者各々に個別記録を作成して日常の気づきや日々の変化を書き込んで介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内に様々な施設があり連携・相談・アドバイスをもらいながら利用者のニーズに応えられるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が墓参りや法事に出掛けられたり行きつけの美容院に行かれる等利用者個人の希望に沿う支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段の定期的な受診は母体の病院で受診をしているが、かかりつけの病院がある場合はそのまま継続して受診をしている。	協力病院の受診が基本的ではあるが、希望する他の医療機関については職員同行で受診が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護の専門的な知識に乏しい事を職員は自覚しており、利用者の些細な変化であっても相談し、連携がとれる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は病院との連携を綿密にとり早期退院出来るように努めている。また出来る限り病院に出向いて利用者の見舞いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期は行っていない。法人内の病院にてバックアップ体制をとっている。またその旨を契約時に書面にて説明を行っている。	契約時、重度化や終末期について文書で、頻繁な医療行為が必要になったり、食事の摂取が困難になった時には医療機関へ紹介するなど、家族に説明が行われている。重度化された場合は、都度話し合いを行い、方針を共有し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにて対応する。法人内での応急救護の勉強会に参加して緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を行っている。時間帯を変え小人数の職員での対応等を行っている。同敷地内の介護老人保健施設と災害時の連携体制をとっている。	スプリンクラー、緊急通報装置が設置され、昼夜想定で1ヶ月に1回、避難訓練が行われている。同敷地内の施設や消防団と連携されている。近隣には住宅がない為、運営推進会議にて駐在員(区長)を交えて検討がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への尊敬の念を持つように心掛け、言葉使いに気をつけている。トイレや入浴時のプライバシーの保護や個人情報の取り扱いにも慎重に気を配っている。	誇りやプライバシーを損なわない言葉かけになっているかどうか常に心がけ、トイレや入浴時の対応にも配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主導ではなく、利用者の思いを可能な限り実現出来るように努めている。個人に合わせた言葉かけで本人の思いを抽出出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「利用者を中心」という考えを常に念頭に置き、職員の都合でなく利用者の意向に沿った支援を行うようにしている。場合によっては予定を変更して利用者の要望に応えられるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される利用者には床屋に訪問してもらい散髪をしてもらっている。眼鏡や帽子などに汚れ等がないかチェックして心地いい状態を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には献立は予め決めているが、状況に応じて変更する事も多い。食事の準備や後片付けも可能な範囲で行ってもらっている。	献立は法人の献立表に沿って作られているが、花見等の行事食は入居者と相談しながらの献立となっている。お盆拭き等、出来る範囲内で職員と一緒に片付けがなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ物の好き嫌いを把握し、個人の摂取出来る食事量を把握し完食を目指している。水分も好みの飲み物を出して少しでも多く摂取してもらうように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の有する能力に応じて言葉かけのみ・半介助・全介助と分けて口腔の清潔を保持できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個人個人の排泄のパターンを把握して誘導する時間や方法を変えている。可能な限りはトイレでの排泄を支援するように努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来る限りオムツではなくトイレでの排泄が出来るように支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すような食事・水分の摂取量を取るよう支援している。また腸の動きが活発になるように運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日は決まっている(火・木・土)が希望があれば都度対応している。	希望によりいつでも入浴が出来る。入浴順序等にも一人ひとりの意向を大切にする配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は出来るだけ起きてもらえるようにして夜間ぐっすり眠ってもらえるように努めているが夜間眠れない場合は無理に入眠を促す事無く見守りで対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法や効果についてファイリングして職員が目を通せるようにしており、利用者個人の状況を把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やドライブが好きな利用者には外出する機会を増やしたり、工作・塗り絵等の手作業を好まれる利用者には材料・道具を提供して日中生活の充実を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	周辺を散歩したりドライブ等に出掛けた際に買い物に行ったりする機会がある。家族と外出・外泊する利用者の方もいる。	ホーム周りの散歩や桜、つつじ、藤等の季節を感じるドライブに出かけられている。また、家族との食事や帰省ができるよう支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には利用者がお金を持つ場合は小銭程度であり、金額が多い物に関しては管理者が管理して必要な時に必要な分だけ出して使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望で家族に電話をすることがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に合わせた室温の調整や耳に馴染んだ音楽を掛けたり季節の草花をリビングに飾ったりして季節を感じてもらえるように取り組んでいる。	自然に囲まれ、小鳥のさえずりやリビングから見える木々、花々から季節を楽しむ事が出来る。空調、明るさ、温度、湿度も快適に生活出来るよう管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の前にイスを置いたりテレビ前にソファを置いて利用者が寛げるようにしている。場合によってイスやソファの配置を変えたりもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	イスやタンス等の家具や小物など利用者が家で使用していた馴染みの物を置いてもらい利用者本人が落ち着くような空間が出来ている。	持ち込みの制限はなく、居心地良く過ごせるよう、使い慣れた家具や小物を持ち込まれている。しかし、荷物が雑然と置かれている居室も見受けられる。	荷物は整理を行い、本人や家族と相談し、家具や写真など馴染みの物を活かして、より良い居室作りに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング・トイレ・浴室に手すりを付けて利用者の安全には注意を払っている。利用者個人の有する能力を活かし出来る事を奪う介護は行わないように努めている。		